

融雪施設の効率的な再生可能エネルギー活用について

ふゆトピア研究発表会

2014年01月24日

山口 和哉（寒地機械技術チーム）／片野 浩司（寒地機械技術チーム）／永長 哲也（寒地機械技術チーム）／齊藤 要（道東支所）

北海道では、スパイクタイヤの使用が法律で禁止されたから多くに融雪施設が設置された。しかし、そのほとんどが電気を熱源としており、電気料金が道路管理の大きな負担となっている。そこで、H23より既存融雪施設の路面状況、供給熱量、風況等のデータを収集し、現状の供給熱量に対する、必要熱量の検討を行ってきた。H24は必要熱量の発生率から、熱量の小さな再生可能エネルギーを効果的に活用するためのベース負荷を検討した。さらに、少雪地域である釧路市の融雪施設の稼働実態調査を行い、風が強く、極端に降雪量の少ない地域での融雪状況を確認したので報告する。

**本論文閲覧ご希望の方は、当該学会等にお問い合わせください。**